73 号

なでしこ通信

2020 年度　夏秋号

今年は、静岡市が全国一暑い日が何度かありました。コロナ禍も続き世の中どうなっていくのか不安がいっぱいですが里親の皆さん、センターの職員も負けずに趣向を変えて行事、研修を実施してきました。

旅行、イベント、会議など密になることを避けて慎重に行動しなければなりませんが一方で一人キャンプ、ウェブ学習、在宅ワークなど余暇、仕事の在り方が変化しています。最近ではワーケーション（旅行先で仕事をする）と言う新しいワークスタイルが生まれています。

センターではコロナ対策として、新しい生活様式を取り入れて今まで里親宅で実施していた里親サロンを少年の家に場所を変え小人数によるグループ討論に切り替えたり、ちびっこサロンでも少人数制にし、児童相談所のプレイルームでの実施、食事の中止などソーシャルディスタンスを考え実施しました。

また、従来のホームページへのアクセスをスマホ対応にしたことで気軽に閲覧できるようになりました。さらにＳＮＳ、フェイスブック等による意見の反映など里親制度をより身近に感じる仕様になったことで普及啓発を進める手段や研修、催事等リアルタイムに掲載し、センターの活動状況を伝えていきたいと思います。

今までどおりとはいきませんが世の中の状況に合わせて進化し、工夫をしながら充実した日々をおくるために、固定観念を捨て新しいセンターに向け挑戦していきたいと思います。

皆様の温かいご支援ご協力を引き続きお願いいたします。

受賞おめでとうございます

全国里親会会長表彰受賞者

　里親功労　　永田　正・久代　ご夫妻

静岡県社会福祉協議会会長表彰受賞者

　里親功労　　梶山昌利・智子　ご夫妻

静岡市社会福祉協議会会長表彰受賞者

　里親功労　　久保田優人・和美　ご夫妻

炭焼きハンバーグとお野菜贈呈

「グラッチェ」（駿河区聖一色）オーナー　青島理晃（あおしまよしてる）様より入学児童等の里子さんへハンバーグランチの贈呈を６月１２日に行いました。とても美味しかったと子供たちも大喜びでした。ありがとうございました。

ぼくもたべたいな

うあー美味しそう

青島さんありがとうございます

これまでの取材、視察等

７月３０日　名古屋市子ども青少年局子育て支援部　５名

８月　５日　NHK 名古屋支局「子どものスマホネットゲーム依存」研修の取材

８月２８日　NHK 名古屋支局「里親カフェ」（飯田生涯学習交流館）取材

９月２５日　静岡新聞「里親カフェ」（南部生涯学習センター）取材

１０月３日　NHK 名古屋支局・SBS 静岡放送「アタッチメント」研修取材

１０月８日　NHK 名古屋支局「児童相談所、支援センター」取材

１０月１０日 SBS ラジオ“樹根爛漫”ラジオ出演

１０月１２日 SBS テレビ　ニュース特集にて　静岡の里親家庭を放送

放送予定

１２月５日　（土）　NHK 名古屋支局「里親特集」　10：00　～　静岡でも放映されます。

楽しいキャンプ

☺ 日　時　令和２年８月２２日(土)
場　所　某所
参加者　　７１　人

つめたくって　きもちいい
(^_^)

あっちのゲーム
もやりたい！！

お菓子釣れた～
しゃてきゲーム
わなげ♡
駄菓子屋さんも
みんな楽しかったよ
(^0^)／

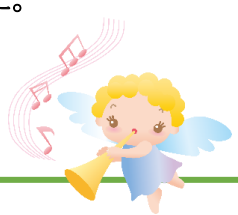
たんじろう・ねずこも
来てくれたよね(^o^)

お兄さんたち　お手伝い
ありがとう(^^)v

すごい楽しかったです。
皆に会えて嬉しかったです。
また来年も来たいです。

誕生日のお祝いに
クッキーをもらったよ❣

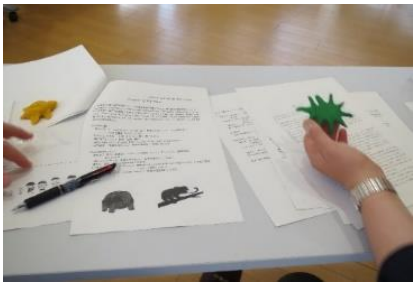
コロナウイルス感染拡大防止のため、開催が危ぶまれたキャンプでしたが、マスクやフェイスシールド・検温、３密を避けることに配慮しなんとか無事実施することができました。
川遊びに夏祭り、お誕生日会、お笑いステージにビンゴと子どもも大人もみんなで楽しみました。
中高生男子の子ども達がスタッフと共に協力をしてくれ大変頼もしく思いました。
大人達もいっぱい話して大笑い、日頃のストレス発散ができました。
とても、楽しいキャンプでした。
どうか来年も、山の家に子どもたちの笑い声が響きますように、、、



研修報告

里親スタート研修

講師に静岡県立大学短期大学部の松平千佳先生を招き、6 月 10 日、24 日、7 月 8 日の 3 日間にわたり少年の家で里親スタート研修を行いました。この研修は里親登録後、子どもを受託する前に受講する研修です。昨年度登録した里親 8 名が受講し、自分を見つめ直すことを通して、子育ての基本である親の役割、子どもとの関係作りについて学びました。



養育里親登録前・更新研修

6 月 25 日に児童相談所で養育里親登録前研修と更新研修が開かれました。登録前研修には 6 名が参加し、里親登録をする心構えを学びました。また更新研修には 14 名が参加。里親としての役割を再度確認しました。

《受講者の感想》

- 研修前と後で物事に対する視野が広がりました。
- 「子どもを幸せにするために受託する。その結果自分も幸せになる」ということを忘れることのないよう努めます。
- 人それぞれ欲している「愛の言葉」は違って、それを汲み取る大切さがわかった。
- 子どもと良い関係を築き自分自身も楽しんで毎日が送れたらいいなと思います。

養子縁組里親登録前研修

7 月 9 日には児童相談所で養子縁組里親研修が開かれました。養子縁組の制度の説明に加え、真実告知とライフストーリーワークについてグループワークを取り入れながら学びました。この研修で新たに 12 名が養子縁組里親として登録しました。

ちびっこサロン、やってます！

新型コロナウイルスの影響で、外出もままならず、不安・イライラが募る…… 養育中の里親さんから、さまざまな不安の声がセンターにも寄せられました。一方で、コロナ禍でも、ちびっこ達はどこ吹く風と、健やかにぐんぐん成長しています。
そんな声に応えて、センターではコロナ対策を十分に取った上で、児童相談所内プレールームを、遊びの場・憩いの場として開放し、6 月から週 2 回程度(不定期)を思い思いに過ごしてもらいました。束の間ですが、なによりも里母さんの息抜きになったと嬉しい声も届いてきました。余談ですが、可愛らしく成長する子どもたちの姿を頻回に見る機会に恵まれ、児相職員、センター職員は癒され、いつしか来所する子どもたち心待ちにするようになっていました。　9 月からは、通常の月 1 回のちびっこサロン開催に戻りました。こんな時だからこそ、里親同士の情報交換の場、里子同士の交流の場を提供し続ける大切さを実感しています。

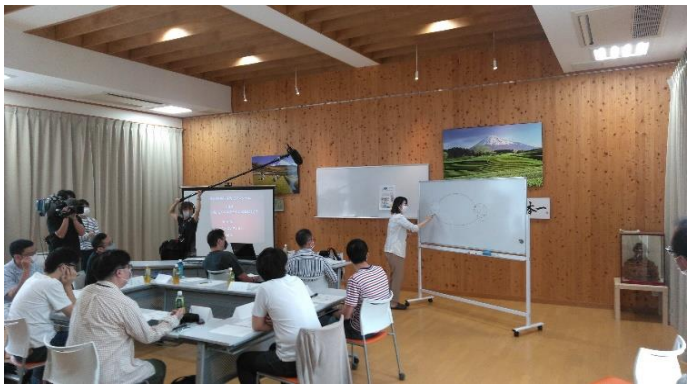
相談員活動も、やってます！

里親相談員は、皆さんのご家庭を訪問してお話を聴いたり、サロン等でお会いできることをいつも楽しみにしています。気軽に、安心して話してもらえるよう、「来てもらえて良かった」という活動が続けられるよう、訪問の仕方を見直したり、電話や行事等での声かけもより多く行いたい、 と思いつつのコロナ渦で、今年度の家庭訪問は 6 月からスタート。里親サロンは小規模での開催となりました。
里親相談員は 11 名。チーム仲良く、センター職員との役割分担も心がけています。
里親同士だから言える話や聞けることもあったり、 訪問させてもらって「今度はうちにも遊びに来てね！」と言える関係がステキだなと感じています。
ミニサロンは 7 月から月 2 回開催され、他の里親さんの話を聞いて「うんうん、わかるわかる」「うちも そう」と共感したり、いろいろ勉強になったり。 少人数も良いなと感じたり、従来のサロンでの寛ぎや、食事中などの何気ない会話の中にも大切なものがあったんだということに気づかされたりもします。9 月にはショートルフラン里親さんに参加してもらい、静岡ホームでのサロンも開催しました。子どもたちの笑顔のためにみんなで力を合わせていけたらと思います。

新しい試み「里父のためのアタッチメント講座」

「パパいや～！ママがいい！！」「ジブンで！！」こんなときどう接したらいいのかな・・・・と困ってしまった経験はありませんか？自我をしっかり出し、特定の大人にたっぷり受け止めてもらった子どもは、自分のことが好きで人と関わることが好きな人間に育っていきます。里父限定研修の第一弾は、乳幼児期に大切なこと、人と関わって育つ大切さについて里父みなさんの子育て奮闘記も出し合いながら考えていきたいと思います。

日程　令和２年１０月３日(土)
時間　１０時～１２時
会場　少年の家
講師　上野　永子先生



研修ではいつでも子供より大きく、子どもより強く、子どもより賢く、そして優しい存在でいよう。できるときは、子どもの欲求に応え、必要な時は毅然と対応することなど「安心感の輪」について学びました。

研修後の振り返りでは、今まで一緒にお風呂に入っていたのに急にママでないといやと言われた時のショックやスマホの管理、躾の在り方など活発な意見交換をし、充実した研修ができました。

里親カフェも、やってます！

静岡市支援センター
里親不足解消へ語り合う
経験者が希望者に 里子の接し方紹介

静岡新聞にも取り上げていただきました！
(^0^)／

～　静岡市内全校区に里親を　～

をスローガンに今年度より開始した里親カフェ里親さんがまだいない校区の生涯学習センターをお借りして、実際の子どもたちとの生活はどんな様子なのかご興味のある方にお話しをさせていただいています。

現在８校区をまわって⇒９名の方に里親さんのお話を聞いていただきました。

出前講座　～静岡福祉大学～　7/28

☆子ども学部子ども学科「家族心理学」受講生

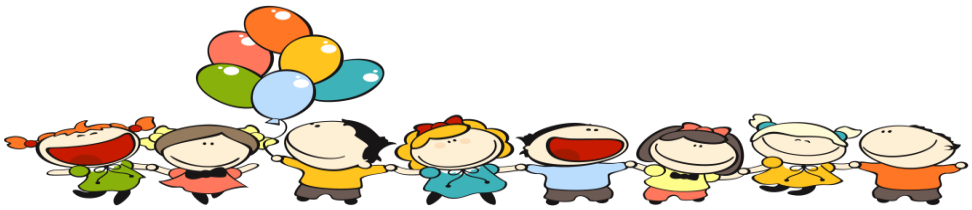
静岡福祉大学の家族心理学の授業、「家族」の多様な側面について学ぶ講義の中で里親についても取り上げていただきました。テーマは「里親家庭の実際」で学生さんたちに、里親の思いや体験談を聞いてもらうことを通して里親について理解を深めていただきました。

【若月里親・遠藤里親・支援センター細澤・清水】

質疑応答では、学生さんたちから活発な質問や意見が聞かれました。

これからの時代を担っていく学生さんたちに里親のこと・社会的養護の子どもたちのことを知っていただく良い機会となりました。

※次回は、12 月　常葉大学短期大学部保育科にて出前講座を予定しております。



ライフストーリーワーク～里子さんの過去を取り戻すための支援～

静岡福祉大学　准教授　上野永子氏

みなさん、こんにちは。心理相談員の上野です。いつも、里子養育を担ってくださりありがとうございます。静岡市里親家庭支援センター(以下、支援センター)で、里親さんと関わらせていただくようになって、今年で4年目になりました。まだまだ、手探りの中で仕事をしているのが現状です。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

さて、最近、いろいろな里親さんからお話をうかがう中で、里子さん特有の乗り越えないといけない課題について深く考えさせられることが多くなりました。それは、里子さんが自分の生い立ちについて知ることについてです。里親さんの多くは、真実告知と言われる「実親の存在」について、就学前の段階で里子さんにそれぞれの方法でお伝えになっているとか思います。その里子さんが成長し、いろいろなことを理解し始めるようになると、自分が措置された経緯や実親のことについて関心を持ち始めます。それは、当然の心の動きですよね。みなさんも小さいころ、自分の記憶にない出来事について親や親族から聞いて、うれしかったり恥ずかしかったりした経験があったのではないでしょうか？そして、それらの思い出話から、自分の小さい頃を思い描いてみたり、その時の親の状況について思いを馳せたりしたと思います。人は、過去から現在の自分について知ることで未来の自分について思い描くことが出来るようになります。思春期青年期の課題であるアイデンティティーの形成には「自分とは何か？」という問いがなされ続けますが、里子さんの多くは、今の自分を作っている過去(措置された理由は何なのかなども含めて)について曖昧なまま、思春期青年期の課題に向き合わなければならないのです。それは、本当に困難を伴いますし、誰かの助けが必要です。そういった里子さんの支援のために、ライフストーリーワークが重要であると言われています。これは、子どもが失っている過去のライフストーリを取り戻すために行われるもので、自分自身を知ることにつながり、「自分とは何か？」の問いに対する答えの一端を担います。措置前のライフス

トーリーワークは、児童相談所しかできませんし(児童相談所しか知りません)、措置後のライフストーリーワークは里親さんしかできません(里親さんしか知らない里子さんの過去がありますね)。里子さんたちの過去を取り戻すには、いろいろな人の力が必要になりますので、「みんなで力を合わせて子育て」することが必要不可欠になります。ライフストーリーワークについて、もっと詳しく知りたいと思われる方は、是非、支援センターにご連絡ください。支援センターもまた、「みんなで力を合わせ子育て」の「みんな」の一員ですし、そのように感じていただけるように精進していきたいと思っています。

～　研究協力のお願い　～

この度、里親子が安定した関係性を構築できるような里親支援のあり方について、静岡市児童相談所および静岡市里親家庭支援センターの了承を得て、研究することになりました。何を実施するのかというと、基本的に、里親さんに対する養育相談が中心で、普段の心理相談と変わりません。違いと言えば、その養育相談に効果があったのかについて評価する作業が加わります。

研究にご協力いただく場合、「原則、里子さんの年齢が就学前」といった条件が設定されています(条件は原則です)。それらの条件に見合う可能性のある方について、児童相談所もしくは静岡市里親家庭支援センターからご依頼のお話しがあるかと思います。その際、ご協力いただければ幸いです。研究にご協力いただける方については、謝礼を贈呈いたします。研究協力のご依頼をさせていただいた方には、改めて詳細をご説明させていただきます。もちろん、「協力できるかどうかわからないが、話だけでも聞いてみたい」という方も大歓迎ですし、話を聞いた後で辞退されてもまったく問題ありません。尚、この研究にご協力いただけない場合であっても、みなさんに何らかの不利益は一切生じません。

本研究によって、静岡市のみならず全国の里親子の支援のあり方の方向性を提案することにつながればと考えています。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

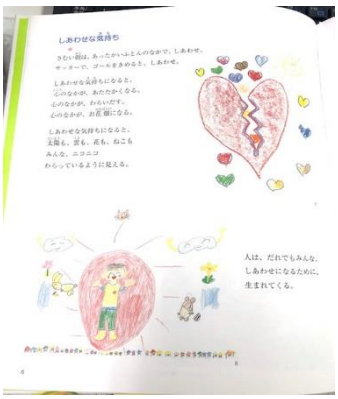
≪図書紹介≫

ご存じですか？

センター事務所内に図書コーナーがあるのはご存じですか？
養育に役立つさまざまな本がたくさんあります。話題の最新刊から告知に役立つ絵本まで。
「ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの」は５冊の蔵書があります。

今日はその中一冊「きもちの本」をご紹介します。子どもが抱える“いろんな気持ち”を絵と言葉でカラフルに表現しています。“気持ち”って何でしょうね。子どもと一緒に眺めながら、大人の私たちが自身の感情について考えさせられる一冊です。

（略）感情に、快、不快はあっても、良い悪いはありません。どんな感情を抱いてもいいのです。大切なことは、自分の心に渦巻くこれらの気持ちを正直に受け止めて、その気持ちをどのように人に表現するかです。



（略）子どもたちは「ムカつく」という感情表現をします。（略）「ムカつく」ことが良いか悪いかではなく、いったい、だれに対して、何が理由で「ムカついて」いるのか、さらに自分は相手に何を求め何をしたいかは、それを言葉にすることで見えてきます。

あとがき＜おとなのあなたへ＞より抜粋

＊　備えつけのノートにご記入の上、３週間以内にご返却ください。
　　蔵書整理をしてくださったボランティアのおふたりに感謝します。

ライン登録について

活用の仕方について

センターでは新しい試みとして携帯電話へ
ライン登録することよってリアルタイムに行事の
案内や会議の出欠など情報発信を今後行っていきたいと
考えています。まだライン登録していない方、操作方法がわからない方がいらっしゃいましたらセンター職員が直接登録等をいたしますのでお気軽にお声がけしてください。
コロナ禍が続く中、多数参加の会議等難しいのでライン TV 電話、ズーム等によるグループワークなど気軽に参加できる企画も検討しています。

寄付金・会員の状況　（令和２年９月現在）

皆様の温かいご協力に感謝いたします

寄付金		３１件
正会員		２３件
賛助会員	（個人）	２９件
	（団体）	１２件
特別会員		１件

皆様のご理解に感謝いたします

（令和２年４月　１日～令和２年　９月 30 日）

団体賛助会員

あゆみ第２こども園　あゆみ福祉会あゆみ保育園　春日保育園　三恵有限会社
タカオ旅館　中部機電サービス株式会社　沼上こども園　(有)細澤建材興業
宮城島豊　ゆりかご保育園　医療法人社団マッキー　竜南こども園

特別会員

静岡市里親会

※敬称略・順不同で掲載させていただきました。

はがき・切手のリサイクルをしています。

書き損じはがき、出さなかった年賀状や使っていない古いはがき、往復はがきの片側だけ等々使用していないはがきならなんでも結構です。未使用の切手(単価は問いません)のご協力もお願いします。眠っているはがき・未使用切手を見つけたら、ぜひ里親家庭支援センターまで送ってください‼

皆様から寄せられた寄付金・会費は当センターが取り組む事業のために大切に使わせて頂きます。今後ともご支援をよろしくお願いします。

マスク寄付のお礼

(株)TRW　若杉　理社長、静岡市、新しい地図、エスパルス　様より沢山のマスクを寄付して頂きました。マスクは里子さんに配布させていただきました。

★貴重なマスクありがとうございました。(*^^*)

編集後記

支援センターに勤務するようになって半年が経ちました。この半年間でサロンや行事等に参加する中で、あらためて里親会のすばらしさを実感しています。コロナ禍のこんな中ではありますが、みんなで結束して乗り越えましょう。

これから寒い日が続きます。里親さん里子さんが元気に過ごしてくださることをセンター職員一同心より願っております。(*^_^*)

ＮＰＯ法人　静岡市里親家庭支援センター

〒420－0947　静岡市堤町914番地の417（静岡市児童相談所内）

TEL. ２７５－２２５２・FAX. ２５５－２０５２

担当者　細澤　　遠藤　　清水

E-mail: satooya@skyblue.ocn.ne.jp